

おすすめの本

野方大輔 准教授
(ミクロ経済学)

戦略的コーポレートファイナンス 中野誠著

日経文庫 2016年

企業には、ヒト、モノ、カネと三つの経営資源をうまく活用して、企業価値を最大化することが求められます。そのなかで、コーポレートファイナンスは、企業の「資金調達」、「投資」、「ペイアウト政策」という財務的意思決定を考える学問です。

本書は、財務的意思決定の全体像をつかむのに有用ですが、そのなかで読者をひきつけるいくつかの工夫がなされています。まず、登場人物の会話形式で話を進めることで、読者がファイナンスの話に無理なく入れるようになっているという点です。住宅メーカー社長と証券会社の社員のもつ素朴な疑問に一人の大学教師がゼミで答えていく、という形式で話は進みます。読んでいる側も、彼らとゼミに参加しているような気分になるので、彼らと同様に素朴な疑問をもち、もっと内容を深く勉強してみたいと思うことがあるかもしれません。このように本書は、ゼミでの会話形式から読者を引き込むことで、+αの勉強を促す仕組みになっているように思います。最後にはブックガイドもついていて、本を読み切った内容に興味を湧いた読者に向けて、さらにどんな本がおすすめかを丁寧に紹介してくれますので、それを活用して自学自習するとよいと思います。

次に、データや論文の結果を豊富に用いて説明を行っており、論文執筆の参考にもなるという点です。たとえば、M&Aをテーマに話をする際は、MARRやSPEEDAといったデータベースをもとに世界や日本のM&Aの動向を紹介しています。また、企業の現金保有と企業価値をテーマに話をする際には、Dittmar教授やPinkowitz教授らの学術論文の成果などをもとに話を進めています。これらは、読者が興味のある領域を深掘りする際に、どんなデータベースや学術論文にアクセスするのが適切かを検討する材料になるかと思います。

そして、本書は、軽くて小さいサイズなので持ち運ぶのも苦ではありません。スマホだけでなく本書も常に携帯して、通学の移動時間などを活用して本書を読んでみてください。

新版 論文の教室 レポートから卒論まで 戸田山和久著

NHK ブックス 2012年

みなさんは、文章を書く作業をこれまでにどれだけやってきたでしょうか。文章を書くことに苦手意識はないでしょうか。

大学に入学すると多くの授業で、しばしばレポートを書くことが要求されます。しかしど

う書いていいのかわからず、感想文同様の作文を提出した結果、低い点が付けられてしまうという苦い経験がある人は少なくないと思います。そのような人に、おすすめのレポート・論文の書き方の本を紹介するとすれば、本書をおすすめします。というのも、内容が充実しているだけでなく、読み物として面白く、飽きないからです。

本書では、論文がどんな文章なのかという「理論」と実際の論文の形の作り方「実践」がバランスよく配置されており、また随所に練習問題が盛り込まれているため、読み手が学習内容を適宜、確認しやすい作りとなっています。

また、先に紹介した本と同様、登場人物二人の会話形式でストーリーが進んでいきますので、読者が、論文の書き方を無理なく学習することができます。本書の主人公は作文の下手な大学生です。はじめは教師からこき下ろされてばかりの主人公の下手な文章も、教師（著者）からの適切な助言を通じて、章を追うごとに成長していきます。

文章を書くことに苦手意識をもつ人は、この主人公のことを他人事と思えないはずです。本書を読むことで論文の書き方を勉強して、主人公とともに成長し、よりクオリティの高いレポートや卒論の執筆に取り組んでください。